



第21回 長崎大学病院 ICLSコース 報告書



「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」

平成30年11月10日(土)開催

主催:長崎シミュレーション教育研究会

共催:長崎大学病院 外来・救急医療教育室

地域医療支援センター

シミュレーションセンター

救命救急センター

協力:日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- ・蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- ・BLS(一次救命処置)に習熟する
- ・AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- ・心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- ・除細動の適応を判断できる
- ・電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- ・状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- ・気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- ・状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- ・治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生17名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター6名、アシスタントインストラクター2名)計10名で指導を行い、3ブースを問題なく運営した。

また、スタッフは医師だけでなく、看護師、救命士、とコメディカルからの参加もあった。

※スタッフ詳細はP.4

<実施内容>

開催日時	平成30年11月10日（土） 9：20～17：00
受講者数	17名
対 象	初期研修医 17名
場 所	長崎大学病院 シミュレーションセンター

<スケジュール>

		グループA	グループB	グループC
09:00～09:20	0:20	受 付		
09:20～09:30	0:10	オリエンテーション		
09:30～10:20	0:50	BLS+AED		
10:20～10:30	0:10	休憩・移動		
10:30～11:20	0:50	気道管理/モニター		
11:20～11:30	0:10	休憩・移動		
11:30～12:20	0:50	気道管理/モニター		
12:20～13:10	0:50	昼 食		
13:10～13:15	0:05	BLS・ALSデモンストレーション		
13:15～14:25	1:10	チーム蘇生	チーム蘇生	チーム蘇生
		VF/VT	VF/VT	VF/VT
14:25～14:35	0:10	休憩・移動		
14:35～15:20	0:45	non VF/VT	non VF/VT	non VF/VT
15:20～15:35	0:15	休 憩		
15:35～16:35	1:00	メガコード	メガコード	メガコード
16:35～16:45	0:10	移動		
16:45～17:00	0:15	終了式・修了証授与式		

午前：BLS（シミュ1）、気道管理（シミュ1）

インストラクター： ○松本、中島、山口

アシスタント： 西

BLS・気道管理： ①松本、西 ②中島 ③山口

午前：BLS（シミュ2）、モニター（シミュ3）

インストラクター： ○井山、小森、百木

アシスタント： 泉

BLS： ①井山、泉 ②小森 ③百木

モニター： ①井山、百木 ②横山、泉

○は、ブースリーダー

午後：グループ1

○松本、山口

グループ2

○井山、百木、泉

グループ3

○中島、小森、西

○は、ブースリーダー

◆アンケート◆ 受講者の声

- ・蘇生を行うと同時に原因を考えることができるようになった。
- ・まだまだ不十分だけど体で身に付けることが少しはできた。
- ・行動の選択肢ができて動けるようになったと思う。
- ・初動と流れは少しずつ身について行ったと思いますが、実際にその状況になったときに動けるかは怪しいため復習が必要だと思いました。
- ・実際の現場を意識できました。
- ・基本的な流れは把握でき、今日何度も行ったことである程度身についた。
- ・チームとしてどのような役割があって、それにしたがって動くことが少しできるようになった。
- ・初めよりはかなり慣れたと思うが原因を考えるのがまだまだできなかった。またその原因が分かっても対処ができなかった。
- ・救急対応を自信を持ってできそう。
- ・自分が動かなければと思えるようになった。各役割を担いながらもチームの一員として助言できれば蘇生の質が上がることが分かった。
- ・指示出しの難しさをわかった。場数をこなすと少し改善した。
- ・除細動の扱いを学ぶことができた。
- ・よい勉強になりました。
- ・とても勉強になりました。
- ・分かりやすかったです。
- ・1日指導していただき有難うございました。2
- ・様々な面からご指導頂き有難うございました。
- ・難しい場面が多々ありました。指導ありがとうございました。
- ・わかりやすく、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・お休みの中、本当にありがとうございました。大変有意義な講習でした。4
- ・休日なのにありがとうございました。今後に生かすよう意識します。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・個人差があるように感じた。
- ・良く勉強されていたと思います。2
- ・今までで一番だったと思います。
- ・よかった。2
- ・GOOD
- ・誠実に頑張っていました。意欲を強く感じました。

2) 予備知識（予習含む）はどうだったか？

- ・少し不十分。
- ・1・2次あまり差がないように感じた。
- ・予習できていたと思います。
- ・今までで一番だったと思います。
- ・良かった。
- ・人によってそれぞれ
- ・4月のBLS講習の影響もあり基礎はよくできていました。
- ・しっかりしています。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・聞くと指導して下さった。
- ・フォロー頂いて助かりました。
- ・わかりやすい説明、指導だったと思います。
- ・よかった。3
- ・協力して行えた。
- ・フォロー頂きありがとうございました。
- ・中々同期に指導することに気が引けたが周りから見ることで改めて学ぶことも多くあった。
- ・良かったと思います。3
- ・サポートしていただきました。
- ・非常に良かったと思います。
- ・perfect

4) 今後について、ひとこと

- ・同期でアシスタントが増えてほしいとおもった。
- ・インストラクターを増やしていきたいです。
- ・ますます発展することを願います。
- ・引き続きよろしく願います。

●改善点●

- ・挿管までの流れは意識しているが、その後の固定についての意識が低く、チューブから固定していない手を放して換気しチューブが曲がった状態で換気している受講生が数名いたので、もう少し気道管理で強調した方が良いかも。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ALSシミュレータ、操作用PC	3	
レサシアン	6	
バックバルブマスク	6	
AEDトレーナー	4	フィリップス
気道管理トレーナー	3	
モニター付き除細動器	3	単相性(予備) 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
口腔エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡ブレード(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	3	
聴診器	3	
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	4	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	6	
メトロノーム	2	
延長コード	4	



長崎大学病院 外来・救急医療教育室
地域医療支援センター、シミュレーションセンター

〒852-8501

電話 (095) 819-7346

長崎市坂本1丁目7番1号

FAX (095) 819-7379